

GABA(γ-Aminobutyric acid)の慢性腎不全ラットに対する効果

横澤 隆子、佐々木 澄代、堀江 健二¹、金 武祚¹ (富大和漢研、¹ファーマフーズ)

【目的】

慢性腎不全は難治性疾患のひとつであり、その治療においては抜本的な治療薬は数少なく、一方、透析療法は心身的、経済的に患者の大きな負担となっている。また、酸化ストレスは慢性腎不全の発症と進展に大きく関与していることが知られている。我々はこれまでにGABAが、急性腎不全モデルに好影響をもたらす事を明らかにした。本報では、慢性腎不全モデルに対するGABAの効果を検討したので報告する。

【方法】

Wistar系雄ラットに5/6腎摘出を施し、慢性腎不全を作成した。GABA 100及び500mg/kg体重/日を胃ゾンデで100日間連続経口投与した。投与30、60、90日目に血液、尿を採取し、100日目に血液、尿、腎組織を採取した。尿素窒素、クレアチニン、蛋白、TBA-reactive substance(TBA-RS)、抗酸化酵素活性は比色法、アルブミンはSDS-PAGE電気泳動法、ナトリウムはイオン電極法で測定した。

【結果】

腎摘によって、血中の尿素窒素の増加、クレアチニンクリアランスの低下、尿蛋白量の増加、尿中アルブミン量の増加、ナトリウム排出率 (FENa) の増加がみられ、GABA投与群ではこれらのいずれも改善していた。

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・